

私がこのプログラムに参加した理由は、大学入学前からグローバル化に伴う日本のグローバル教育と、海外の教育に興味を持っていたからである。これからの時代はグローバル化が進み、学校教育では、社会に出てから外国人を相手に仕事をする人材やグローバルに活躍する人材を育成することが求められる。また学校教育の現場でも外国籍の生徒が増加する。しかし、実際の学校現場ではその社会の変化に対応が追いついていないのが現状だと思う。日本では、自分と違った人や、少数派（マイノリティー）を敬遠し、差別的に扱うことがしばしば見受けられる。一方アメリカは日本と違い多文化、多民族国家であるため、自分と見た目や考え方の違う人がいるのは当たり前のことであると思う。そこでどのように多文化が共生しているのか自分の目で見て実感したいと思った。またアメリカの学校での教育の特徴や児童生徒の様子について日本と比べ、今後の学習と将来に役立てたいと思った。

中学校や高校を見学し感じたことは、生徒の自主性が尊重されていることである。まず、日本とは違い、アメリカでは先生がそれぞれの部屋を持っていて、それぞれの専門に合わせて教室がレイアウトされていた。授業によっては生徒の席が明確に決められておらず、床に座っている生徒やソファやバランスボールなどに座って授業を受けている生徒もいた。しかし、決して生徒はさぼっているわけではなく、友達同士で相談して課題を進めていて、授業がしっかり成立していることが衝撃的だった。それどころか、教室がとても明るい雰囲気、活気にあふれていた印象を受け、とても感動した。また、日本に比べ ICT の活用も進んでいた。プロジェクターはもちろん、中学校の英語の授業では生徒が一人一台パソコンを持っていたり、高校の日本語の授業ではスマートフォンを用いて単語クイズの点数を競い合ったりなどとても有効的に ICT が活用されていた。



日本語の授業の授業実践では、授業構成や、授業で何を取り上げるかなどを考え、何度もリハーサルと授業案の練り直しを行った。私は、英語に自信がなく、授業において英語で説明することや、生徒どうまく会話できるかなどとても不安だった。しかし、同じ参加メンバーの四人のアドバイスやフォローのおかげで問題なく授業を進めることができた。授業実践以外でも、メンバー同士で協力して 10 日間を過ごすことができとても良い刺激になった。アメリカに行く前は、英語がそこまで話せなくても何とかかなると思っていた。実際、何とかかなると思うが、メンバーの四人を見て、しっかり英語を話せるようになり、英語圏の人たちともコミュニケーションをとったり、自分の思っていることを伝えられるようになりたいと感じた。



大学内のスタジアムでアメリカンフットボールを観戦したこともとても心に残った。大学内にスタジアムがあることも衝撃だったが、試合当日は、キャンパス内にテントが一面建てられていて学生やOB、OGがパーティーやBBQをしていてとても賑やかで感動した。こういったアメリカの文化に触れることができとてもよかった。

今回のアメリカ滞在では、出会った人々から、とても暖かく、明るいイメージを持つことができた。

参加する前は、英語が不安で参加するか迷っていたけれど、1歩踏み出して、思い切って参加したことでたくさんの経験を得ることができて本当に良かった。この経験を今後にかしたい。